

学校名	福島県立原町高等学校	校長	本多 光弥
住 所	福島県南相馬市原町区西町3丁目380		
T E L	0244-23-6196	ホームページアドレス	http://www.haramachi-h.fks.ed.jp/

タイトル

光は原高より

～ 震災を乗り越え、頑張る原高生 ～

(※「光は原高より」は、昭和50年頃に原高でよく使われていた言葉です。)

取組の概要

原町高校は、震災及び原子力発電所事故による避難区域の指定により、サテライトの生活や他校への転校という厳しい状況を経験しました。

しかし、今、生徒たちは、それを乗り越え、学習活動はもちろんのこと、部活動や生徒会活動、ボランティア活動などにいきいきと取り組み、震災からの復興を願う地域の人達に元気を発信し続けています。中でも象徴的だったのが、生徒会行事である「合唱コンクール」の復活です。その取組みについて紹介します。

内 容

沿革史(原高50年の歩み)によると、このクラス対抗の合唱コンクールは、昭和32年にまでさかのぼり、実に半世紀以上の歴史を持つ原高伝統の行事です。震災により一時中断してしまいましたが、昨年、伝統をなんとか繋ごうとする生徒会役員や生徒達の熱意により、見事な復活を果たしました。そして今年度も6月13日に開催されています。

公平性を保つため、音楽の教員の指導を受けないという約束事があり、曲の選定、楽譜の手配をはじめ、練習もすべて自分達で行い曲を仕上げていきます。それだけでなくも忙しい勉強や部活動の合間に、クラスで練習することは難しく、生徒同士で知恵を出し合ったり工夫しながら、様々な困難を乗り越え、各クラスとも本番に向けた準備を進めます。この時期、朝の始業前、昼休み、放課後には、校舎内外に歌声が響き渡り、学校中



(今年度の最優秀クラス「一詩人の最後の歌」)



(金木犀の木の下で練習)

が不思議な雰囲気になります。そして本番当日、「ゆめはっと」の大ホールで奏でられるハーモニーは、高校生らしい純粋な美しさに溢れ、会場は大きな感動に包まれます。



(出番直前 気合いを入れて)

参加者の感想

「復興への思いを歌に」 ～2年ぶりの合唱コンクール～

これは、新聞部が昨年7月に発行した原高新聞第207号の見出しです。その中で新聞部の生徒は次のように書いています。「昨年の3年生(震災直後の3年生)は最後の合唱コンクールを迎えられずに卒業した。今年の1年生はもちろん、2年生もまた、この原町高校の合唱コンクールを知らない。だから、今年の3年生は後輩にそれを伝えなければならない使命があった。(途中略)今回の合唱コンクールは震災を乗り越えて前に進もうという復興祈願の思いも込められていた。これからの、未来の原高生には、その意義をいつまでも忘れず、この原高のシンボルを受け継いでいってほしい。」